

からこんにちは！

3学期を迎えて

校長 仲山 幸浩

本校では、子どもたちの自立「自ら考え、決断し、行動する姿」を目指し、日々の授業や学校生活を進めています。その考えのもと、子どもたちに「どんな学校にしたいですか」と尋ねたところ、「笑顔あふれる学校」「行くのが最高の学校」「大人になっても忘れない学校」など、前向きで温かな言葉が数多く聞かれました。中には、「授業がない学校」「お菓子が食べられる学校」「神のような学校」といった、思わず笑み（苦笑？）がこぼれる意見もありましたが、そこには「もっと楽しく、安心して過ごせる、ほっとできる学校」という子どもたちの素直な願いが表れていると感じています。

子どもたちは話し合い「打ったボールをキャッチしたら、守備の全員がその場所に集まって座るとアウトが取れる」というルールに工夫を加えました。フリスビーという新しいアイテムを取り入れ、事前にフリスビーを投げておきます。そして「打ったボールをキャッチしたら、そのフリスビーのある場所に守備が集まって座るとアウトが取れる」に変更しました。すると：「フリスビーからなるべく遠くに打てば得点しやすいね」「フリスビーをここに投げておこう」——子どもたちは、遊びながら状況を読み、戦略を考えていたのです。

小中学校

校内書初め展

小学校では1、2年生はフェルトペン、3～6年生は毛筆を使い、書初めを行いました。一人ひとりが集中して取り組む姿が印象的

でした。厳肅な雰囲気の中、それぞれの児童が自分の字と向き合い、力強く、そして丁寧な筆を振るいました。また、4～6年生の合同書初めでは、5名のボランティアの方に協力していただきました。児童は、アドバイスを聞きながら、満足のいく作品に仕上げることができました。



▲ 慣れない毛筆で字を書きます

中学校では、国語の授業と冬休みの課題として書いた書初め作品を校内に掲示し、校内書初め展を実施しました。初めは一年ぶりの書初めに緊張する様子も見られましたが、書いていくうちに筆の扱いにも慣れ、のびのびと書くことができました。また、今年度は冬休みにしまスクの方々にもご協力いただき、立派な作品を書き上げ

ることができました。
※しまスク

P.T.A解散後に発足した保護者会です。名前には、西ノ島でスクスク子どもたちが育っていくように、西ノ島の学校（スクール）の子どもたちを応援する会」という意味が込められています。

【金賞】

山根優成・中浜律哉・犬谷琴子

【銀賞】

小新智嗣・新 遥花・山根一夏

【銅賞】

白野心晴・伊藤希実・古谷快己

中学校

中学1年ジオパーク学習

1年生の総合的な学習の時間では『西ノ島町の良さって何？』をテーマに学習を進めています。個人でテーマを設定して自分の考える西ノ島町の良さについて、考えを深めていきます。情報収集のために取材をしたり、最終的には発表したりすることを計画しています。個別のテーマを設定するためにも、まずは西ノ島について知る

●●● 西ノ島小中学校



▲ 現地で説明を受けます

必要があると思います、その一つとして、12月8日にジオサイトツアーに出かけました。
 隠岐しぜんむらから講師の方を招き、隠岐ジオパークについて学びました。大地の成り立ち、独自の生態系、人の営みを軸に、国賀海岸、鬼舞展望所、由良比女神社を見学しました。現地では講師の方に丁寧に解説していただき、岩石や植物、祭事について深く考えるきっかけとなりました。生徒は熱心に話を聞きながら、メモや写真をとっていました。ジオサイトツアーで改めて発見した西ノ島町の良さを、今後の学習でさらに深めていきたいと思っています。

小学校



▲ 笑顔いっぱいスキーを楽しむ児童

5年生は2泊3日の交歓スキー教室に出かけました。最初は、久しぶりの再会に緊張していましたが、レクリエーションやスキー教室を通して、仲良く活動する姿が見られました。スキーでは何度も転びましたが、転んだ数だけ挑戦して、上達しました。児童が「ここから帰りたくない」と言うほど、江府町の魅力を感じている様子でした。



▲ 転んでも何度も挑戦し、どんどん上手になりました!



〈児童の感想〉
 5年 福島 碧汐
 江府学園の友達と久しぶりに会って、一緒にスキーができて楽しかったです。江府学園の友達に話しかけて、同じ班の人と仲良くなれたので忘れられない思い出になりました。スキーは初めてでしたが、インストラクターの方がいねいに教えてくださり、コースを何周も回れるようになりました。また江府町でスキーがしたいです。



▲ 交歓スキー教室を通して交流を深めた、西ノ島町と江府町の児童



▲ レクリエーションで仲良くなります